

# PRESS RELEASE

2023/03/13 (情報解禁即日)

ブロードウェイ・ミュージカルといえば、この作品！

ブロードウェイ・ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」

スピルバーグ監督による映画版の大ヒットを受けて誕生した新プロダクション、この夏来日！

ブロードウェイ・ミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』が、今年 2023 年 7 月、来日を果たす。ブロードウェイ史に名を刻む同作のタイトルは誰もが知るところだろう。〈トゥナイト〉や〈マンボ〉〈サムホエア〉といった同作を彩るナンバーも、きっと耳にしたことがあるはずだ。多くの歌手がこぞってカバーしており、また、フィギュアスケートのプログラムでもたびたび使用される。



©Johan Persson

一昨年、世界中に旋風を巻き起こしたのは記憶に新しい。1957年にブロードウェイ初演、1961年に初の映画化、その後60年の時を経てスピルバーグの手により2度目の映画化で注目されたのが2021年。特にTikTokをはじめとするSNSで話題となり若者が初めてこの作品に出会ったと言われている。映画は、第94回アカデミー賞で、アニタ役を演じたアリアナ・デボーズが助演女優賞を獲得、第79回ゴールデングローブ賞ではコメディ・ミュージカル部門作品賞、主演女優賞、助演女優賞を受賞し、話題を呼んだ。そして、世界のプロモーターは、「ぜひ劇場でミュージカルを再び！」と作品権利者へオファーした。それを受けて、ミュージカルのワールドツアーが昨年12月より始まった。「ウエスト・サイド・ストーリー」を知り尽くしたクリエイター、「フリオ・モンヘ」の振り付け、「ロニー・プライス」の演出は日本のウエストサイド通を、うならせるに違いない。

# PRESS RELEASE

2023/03/13 (情報解禁即日)

ウィリアム・シェイクスピアの戯曲「ロミオとジュリエット」を下敷きに、レナード・バーンスタインが作曲、ステイーヴン・ソンドハイムが作詞を手がけたブロードウェイ・ミュージカル「ウエスト・サイド物語」は、1957年にブロードウェイで初演。その後ミュージカル映画全盛期の1961年には巨匠ロバート・ワイズとミュージカル版の原案と振付を務めたジェローム・ロビンスの共同監督で映画化され、第34回アカデミー賞で、作品賞を含む10部門を制した。子どもの頃、同作の楽曲を聴き、感銘を受けたスピルバーグは、長い間、同作を再映像化することを夢んでいたという。いや、スピルバーグだけじゃない。60年以上前のこの作品に、今なお世界中の多くの人が魅了され続けている。全く衰えるどころか、さらにグレードアップされているとも言える。



©Johan Persson

物語の舞台は1950年代のニューヨークのマンハッタン、ウエスト・サイド。そこでは夢を求めてアメリカにやってきた移民たちが暮らし、差別や偏見に満ちた社会のなかで若者たちは敵対するグループとの縄張り争いに明け暮れていた。なかでも特に激しく敵対し、抗争を繰り返していたのが、ポーランド系移民で構成される“ジェッツ”とプエルトリコ系移民の“シャークス”だった。そんな中、“ジェッツ”の元リーダーであるトニーと、“シャークス”のリーダーの妹マリアが出会い、瞬く間に激しい恋に落ちる。非常階段で見つめ合うシーンは、全ての人の心をつかんだ。出会ってはならない二人の恋の行方は・・・

現在につながるさまざまな社会問題を内包するストーリーは、格差と分断の時代を生きる私たちの心を揺さぶる。バーンスタインによる楽曲もすばらしい。乱暴にいつてしまえば、オペラ、ラテン音楽、ジャズ、現代音楽など、さまざまなジャンルの音楽のいいところ取りである。映画版のサウンドトラックは空前のヒットを記録。オリジナル映画が全米公開された1961年10月にリリースされ、1962、63年の2年間にわたって、全米、全英のアルバムチャートを制した。“感情を踊る”ことを求めたという、ロビンスの振付によるダイナミックなダンスも見逃せない。なお、同作の作詞を手がけたソンドハイムは、のちに作曲家として大成。「ミュージカルの巨匠」と呼ばれるようになる。

昨今のミュージカルは楽曲とダンス、あるいはコンセプトのいずれかに特化したものが多く、それはそれで素晴らしいのだが、そのすべてをこれほどのハイレベルで備え、「すべてが見どころ」と自信を持って断言できる作品は希有だ。『ウエスト・サイド・ストーリー』が、ミュージカルの金字塔と言われる所以はここにある。これこそ劇場で観るべき王道作品。この夏、世界最上級のミュージカルが日本にやってくる。



# PRESS RELEASE

2023/03/13 (情報解禁即日)

## ブロードウェイ・ミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』

日程：2023年7月5日(水)～7月23日(日)

会場：東急シアターオーブ (渋谷ヒカリエ 11階)

生演奏・英語上演・日本語字幕あり

原案：ジェローム・ロビンス

脚本：アーサー・ロレンツ

音楽：レナード・バーンスタイン

作詞：スティーブン・ソンドハイム

オリジナルプロダクション・演出・振付：ジェローム・ロビンス

演出：ロニー・プライス

振付：フリオ・モンヘ

出演：来日カンパニー

チケット (全席指定・税込) 一般発売 3/25 (土) ※先行予約受付中

平日 S席 15,000円 A席 13,000円 B席 10,000円

土・日・祝 S席 16,000円 A席 14,000円 B席 11,000円

公式ホームページ <https://westsidestory.co.jp>

お問い合わせ Bunkamura 03-3477-3244 (10:00～18:00)

[主催] TBS／Bunkamura／VIS A VISION／ぴあ／ローソンチケット／TOKYO FM

[協賛] オリエンタルバイオ [オフィシャルエアライン] 日本航空

### WEST SIDE STORY

is presented through special arrangement with Music Theatre International (MTI), New York, NY, USA.

All authorized performance materials are also supplied by MTI.

### WEST SIDE STORY

Based on Conception of JEROME ROBBINS

Book by ARTHUR LAURENTS Music by LEONARD BERNSTEIN Lyrics by STEPHEN SONDHEIM

Entire Original Production Directed and Choreographed by JEROME ROBBINS

Originally Produced on Broadway by Robert E. Griffith and Harold S. Prince  
by Arrangement with Roger L. Stevens

# PRESS RELEASE

2023/03/13 (情報解禁即日)

本リリースに付帯する写真画像 全てクレジット必要 (ロゴ以外) ©Johan Persson

メイン



サブ (メインを使用の上、サブとしてお取り扱い下さい)



ロゴ

ビリング1 (原稿全体に対する認可/クレジット)

**WEST SIDE STORY**  
Based on Conception of JEROME ROBBINS

Book by **ARTHUR LAURENTS** Music by **LEONARD BERNSTEIN** Lyrics by **STEPHEN SONDHEIM**

Entire Original Production Directed and Choreographed by **JEROME ROBBINS**

Originally Produced on Broadway by Robert E. Griffith and Harold S. Prince  
by Arrangement with Roger L. Stevens

ビリング2 (活字データ) ビリング (原稿全体に対する認可/クレジット)

WEST SIDE STORY

is presented through special arrangement with Music Theatre International (MTI), New York, NY, USA.

All authorized performance materials are also supplied by MTI.